



平成23年度文化芸術振興費補助金  
(トップレベルの舞台芸術創造事業)



# モーツァルト室内管弦楽団 第144回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 144. Regulärkonzert

〈楽団創立40周年記念シリーズ〉第18回  
〈モーツァルト記念合唱団創立20周年記念〉

**2011年12月11日(日) 午後2時 ■ いずみホール**

Sonntag, 11. Dezember, 2011, 14:00Uhr *Izumi Hall*, Osaka

- 主催：モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.hi-ho.ne.jp/mozart/>
- 協賛：いずみホール〔財団法人 住友生命社会福祉事業団〕
- マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail: [artists@gol.com](mailto:artists@gol.com)  
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 Tel 06-6135-0503  
<http://www.oaa1985.com>



本公演は大阪ユニセフ協会を通じて、東日本大震災被災地の子どもたちのための募金活動を行います

モーツァルト室内管弦楽団 第144回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 144. Regulärkonzert

2011年12月11日(日) 2:00pm. ● いずみホール  
Sonntag, 11. Dezember, 2011, 14:00Uhr ● Izumi Hall, Osaka

〈 楽団創立40周年記念シリーズ 〉 第18回  
〈 モーツァルト記念合唱団創立20周年記念 〉

モーツァルト

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

歌劇《魔笛》K.620 序曲

Ouverture zur Oper „Die Zauberflöte“ KV 620

ラター

John Rutter (1945-)

マニフィカト\*

Magnificat\*

1. 我が魂は神を賛美する/Magnificat anima mea
2. 薔薇、愛らしい薔薇/Of a Rose, a lovely Rose
3. 私に大いなることを為させたもうた/Quia fecit mihi magna
4. そして憐みは/Et misericordia
5. 主は力をもって/Feci potentiam
6. 飢えしもの/Esurientes
7. 父に栄光あれ/Gloria Patri

\* \* \*

モーツァルト

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

レクイエム ニ短調 K.626\*\*

Requiem d-moll KV 626\*\*

- |   |  |
|---|--|
| <p>I. 入祭唱/Introitus</p> <p>II. 憐みたまえ/Kyrie</p> <p>III. 続唱/Sequentia</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 怒りの日/Dies irae</li> <li>2. 不思議なラッパ/Tuba mirum</li> <li>3. おそるべきみいつの王/Rex tremende</li> <li>4. 思いたまえ/Recordare</li> <li>5. 呪われし者/Confutatis</li> <li>6. 涙の日/Lacrimosa</li> </ol> | <p>IV. 奉献唱/Offertorium</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主イエズスよ/Domine Jesu</li> <li>2. 讃美のいけにえ/Hostias</li> </ol> <p>V. 聖なるかな/Sanctus</p> <p>VI. ほむべきかな/Benedictus</p> <p>VII. 神の子羊/Agnus Dei</p> <p>VIII. 拝領唱/Communio</p> |
|---|--|

ソプラノ：高嶋 優羽\*,\*\* / Sopran : Yuha Takashima\*\*

アルト：山田 愛子\*\* / Alt : Aiko Yamada\*\*

テノール：西垣 俊朗\*\* / Tenor : Toshiro Nishigaki\*\*

バス：田中 勉\*\* / Bass : Tsutomu Tanaka\*\*

合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務) / Chor : Mozart Choral Ensemble (Chor-Dirigent : Tsutomu Masuko)

管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団 / Orchester : Mozart-Kammerorchester

コンサートミストレス：林 泉 / Konzertmeisterin : Izumi Hayashi

指揮：門 良一 / Dirigent : Ryoichi Kado

指揮：益子 務\* / Dirigent : Tsutomu Masuko\*

## モーツァルト記念合唱団20年の歩み

指揮者 益子 務

モーツァルト記念合唱団は1991年にモーツァルト没後200年を記念する演奏会のために創立され、その演奏会後には自動的に解散する予定でありました。しかし、この合唱団を解散してしまうことは残念なので続けて活動することになり、なんと20周年を迎えることになりました。20年間、演奏の中心はモーツァルト室内管弦楽団との共演で、種々のオラトリオを中心にレパートリーを構築してきました。モーツァルト、ハイドン、ヘンデルのミサやオラトリオなどを演奏してきましたが、1992年のベルリオーズのオラトリオ「キリストの幼時」は大好評でその後4回の再演を行いました。

この合唱団の特徴は定期的な練習で歌い続けるのではなく、コンサートの曲目が決定された後、約40名のメンバーを決定し、各自が個々に譜読みを準備します。演奏会の前に5回から10回前後の練習でアンサンブルを固め、ステージに臨むという方法であります。20年の間には2度にわたってベルギー・フランドル政府の招請を受け、演奏旅行を行いました。また創立10周年にはロッシーニの「小荘厳ミサ」のCDをリリースしました。合唱団独自の演奏会ではブラームスのLiebes LiederやNeue Liebes Liederなどと共に黒人霊歌やゴスペルなども取り上げ、日本語、英語、ドイツ語、イタリア語、フランス語、ロシア語と様々な言語で歌うことを得意とする合唱団であります。ソリストとしてアメリカのJohn Wright教授、アメリカやヨーロッパの歌劇場で歌っているMark Walters氏、スロヴァキア国立歌劇場のヨゼフ・シュバチェック氏などと共演し、正統的な演奏をしてきました。「ある黒人少年の物語」では「合唱ミュージカル」という分野を創造しました。この作品は数年間に亘り20回以上の再演をおこない、2011年9月には日本音楽療法学会の第10回学術大会の大会長公演として神戸で演奏し大好評を博しました。

モーツァルト記念合唱団はプロ合唱団ではなく、メンバーはほぼ固定しています。練習の成果を発表するアマチュアの合唱団とも異なった性格であり、演奏会が決定された時にメンバーを呼び集め、練習に入ります。しかし、最近は男声メンバーがそれぞれの会社などで重要な立場になるに従って練習への出席が困難になってきています。結婚した女声も夫の転勤などでやはり練習への出席が困難になってきています。現在、数人のメンバーが東京近辺から練習に来て、演奏会に参加しています。

今後、来年5月26日に予定しているいずみホールにおける「合唱団創立20周年記念コンサート」をはじめ、これらの困難を乗り越えて、聴衆の皆様楽しんでいただける「合唱団」として活動して行く所存ですので、暖かいご支援をお願いいたします。

### 第145回定期演奏会

(モーツァルト・オペラシリーズ) 第11回

2012年1月9日(月・祝) 午後2時●いずみホール

〈フィガロの結婚〉K.492

伯爵：萩原寛明  
伯爵夫人：津山和代  
フィガロ：松森 治  
スザンナ：福永修子  
ケルビーノ：山田愛子  
マルチェリーナ：西村 薫  
バルトロ：松下雅人  
バジリオ、ドン・クルツィオ：西垣俊朗  
パルバリーナ：山田千尋  
アントニオ：山中雅博

合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

指揮：門 良一、益子 務

制作：益子 務、西垣俊朗、門 良一

協力：堺シティオペラ

### 第146回定期演奏会

2012年3月17日(土) 午後2時●いずみホール

### 第17回東京定期演奏会

2012年3月18日(日) 午後2時●津田ホール

〈モーツァルトとハイドン〉その6

ハイドン：交響曲 第44番 ホ短調 Hob.I-44  
カール・シュターミッツ：フルート協奏曲 ト長調  
モーツァルト：交響曲 第40番 ト長調 K.550

フルート：大江浩志

指揮：門 良一

### モーツァルト：《魔笛》K.620 序曲

《魔笛》は《フィガロの結婚》とともにモーツァルトのもっとも人気のあるオペラだが、《フィガロ》や《コジ・ファン・トゥッテ》が宮廷からの依頼による正統的なイタリア・オペラであるのに対して、これはザルツブルク以来の悪友ともいべきシカネーダーという場末の芝居小屋の座長から頼まれた、ドイツ語の大衆向け歌芝居である。だから筋書きも面白い加減で、途中で善玉と悪玉が入れ替わったりする。だが音楽はすばらしく、《魔笛》こそがモーツァルトの「白鳥の歌」だという人も多いだろう。序曲も名曲で、アダージョの序奏はこのオペラのバックボーンである宗教的秘結社フリーメイソンの教義において「混沌・夜・月・女性」を意味する数字の5を表す5つの音ではじまる。アレグロの主部になってしばらくするとアダージョが再現して、冒頭と似た音型が現れるが今度は音は3つで、3回繰り返される。3は「秩序・昼・太陽・男性」を意味する数字なのである。モーツァルトの序曲中、唯一トロンボーンがオーケストラに加わっている。教会の楽器であったトロンボーンがモーツァルトによって世俗音楽に用いられ、以後オーケストラに定着したのである。 (門 良一)

### ジョン・ラター：マニフィカト

以下は作曲家自身による解説の引用である。新約聖書の中の「ルカ伝」の内でも「マニフィカート」として知られている第1章第46～55節は、詩的な情緒ある表現でキリストを身ごもったことを知ったマリアに対する畏敬と愛情に満ちている部分である。バッハがこの部分を使った「マニフィカート」を作曲して以来、あまり多くの作品が作曲されていない。私自身もこの詩に作曲したいと長く考えていたが、いかなるアプローチをとるかを決めかねていた。スペイン、メキシコやプエルトリコで「聖母マリア」を祝う祝祭では町をあげて楽しく歌い踊る。このような屋外で「聖母マリア」を祝う明るい雰囲気に出会ったことが作曲のインスピレーションとなった。2番に15世紀、イギリスの詩「Of a Rose, A lovely Rose」と7番に「Sancta Maria」の祈りを加え、聖母マリアとの結びつきを強調した。また3番にグレゴリオ聖歌のメロディーを挿入し、精神的つながりを確立することにした。紆余曲折を経て曲は完成され、1990年5月にカーネギー・ホールで初演された。演奏時間約40分。 (益子 務)

### モーツァルト：レクイエム 二短調 K.626

モーツァルトが生涯の最後に書いた異常ともいえる作品である。彼の最後の年は3つの大作の作曲がほとんど同時進行で行われていた。2つのオペラ、《魔笛》と《皇帝ティトゥスの慈悲》、それにこのレクイエムである。それらの間隙を縫ってクラリネット協奏曲などが書かれているのであるから底知れぬ天才ぶりである。その天才をもってしてもレクイエムが未完に終わったのはなぜであろうか。他の曲は完成されているのに、である。

モーツァルトの最後の10年間は、ハイドンとヘンデルからの影響との格闘であったといえる。この二人がモーツァルトとは全く違った作曲家であったがゆえに、その様式を自己の作品に取り込むことは、自己



の存在を根底から揺るがしかねない無謀ともいえる試みであった。弦楽四重奏曲集「ハイドン・セット」でモーツァルトは大いに苦しみ、またヘンデルを模した壮大な宗教曲「ハ短調ミサ」は未完に終わった。レクイエムにおいてもヘンデルの痕跡は明らかで、冒頭の「入祭唱」や続く「キリエ」ではヘンデルの作品との一見してわかる酷似性が学者によって指摘されている。50年以上前に完成された音楽様式を消化しきることはモーツァルトの天才をもってしても無理があった、というのが未完の理由ではないかと思う。

さて、今日この曲はモーツァルトの弟子であるジュスマイヤーが未完部分を補完したかたちで演奏されている。モーツァルトは死の床でジュスマイヤーに指示を与えたと伝えられる。「サンクトゥス」、「ベネディクトゥス」、「アニユス・デイ」の3つの章は「私の作曲である」とジュスマイヤーは言っているが、はたしてそうだろうか。「サンクトゥス」は他の章と全くバランスが取れない短さで、音楽の展開もお粗末である。「ベネディクトゥス」は「サンクトゥス」がニ長調であるのに対して、その長3度下の変口長調で書かれている。その後半は「サンクトゥス」の後半と同じ「オザンナ」が繰り返されるのだが、それがニ長調に回帰せず変口長調のままなのである。モーツァルトなら自在に転調して簡単にニ長調に戻せたであろうが、不肖の弟子ジュスマイヤーにはそれができなかった。ということは、「ベネディクトゥス」の変口長調という調性はモーツァルトがすでに決めていたのではないか、少なくともその主題くらいはスケッチとして残していたのではないか、という推理が成り立つように思う。「ベネディクトゥス」はお粗末な「サンクトゥス」に比べればかなり良くできており、主題もいかにもモーツァルトを思わせるものである。

それはともかく、ジュスマイヤーの補完部分は初演当初から悪評であり、最近になってもさまざまな改作が試みられているが、結果的に誰もモーツァルトになることはできないのであって、できは悪くとも直弟子のジュスマイヤーのもので満足せざるを得ないのではなからうか。因みに、バーンスタインやマリナーが使い、最近ではアルノンクールが用いている「バイヤー版」というのがあるが、これはジュスマイヤーの補完部分のオーケストレーションを改訂しただけのものであって（結果としてさらにつまらなくなっているのだが）、基本的にはジュスマイヤーの作品であり、「ジュスマイヤー版」か「バイヤー版」というふうに対置させるのは誤りである。

ジュスマイヤーの名誉のために一言付け加えよう。有名なラクリモーザ（涙の日、あるいは嘆きの日）は最初の8小節だけがモーツァルトの手になるもので、その後の部分はジュスマイヤーが補ったのであるが、これはまずまずの出来ではないだろうか。8小節だけなら今日演奏されることはまずあるまいと思われる。いろいろと問題はあるにせよ、まがりなりにも完成した作品にして演奏できるかたちにした、というのはジュスマイヤーの大きな功績であろう。 （門 良一）

（モーツァルトの2曲に関しては2006年12月3日の第119回定期演奏会のプログラム・ノートに加筆修正したものである。）



## 門 良一 ●指揮

Ryoichi Kado, Direction

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。

1982～2011年、NHK大阪文化センター、1992～2011年、神戸文化センターにおいて「モーツァルトを聴く」の講師を務める。京都産業大学名誉教授。



## 益子 務 ●指揮

Tsutomu Masuko, Direction

京都大学教育学部卒業後、1967年、同大学院在学中にロジェ・ワグナー合唱団と契約し渡米。1968年からシカゴ・リリック・オペラ、ミシガンオペラなどのソリスト。その間、シカゴ音楽大学、シンシナティ大学大学院声楽科を経てインディアナ州立ボール大学で修士号取得、同博士課程修了。1977年より武庫川女子大学音楽学部教授（声楽・音楽療法）。バルセロナ市立音楽大学（スペイン）、ドレスデン国立歌劇場、ワイマール音楽大学（ドイツ）、ノヴォシビルスク国立グリンカ音楽大学（ロシア）などで客員教授として声楽を教える。指揮者としてはホワイトウオーター・オペラ（アメリカ）、モーツァルト室内管弦楽団・合唱団、カメラータ・シンフォニカ・ボヘミア（チェコ）などを指揮。毎夏ブラハで「アメロバ国際室内楽祭」で教授、指揮を行う。



## 高嶋優羽 ●ソプラノ

Yuha Takashima, Sopran

兵庫県立宝塚北高等学校演劇科を経て、大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業、同大学専攻科声楽専攻修了。これまでに「後宮からの逃走」ブロンデ、「フィガロの結婚」スザンナ、「魔笛」パミーナ、夜の女王、フィデリオ、マルツェリーネ、「リゴレット」ジルダ等を演じ、関西二期会地方招聘公演「ナクソス島のアリアドネ」ではナヤード役で新国立劇場に出演すると同時にツェルビネッタ役のアンダースタディを務める。また、「第九」「メサイヤ」モーツァルト「戴冠式ミサ」「レクイエム」等のソリストを務める他、オーケストラとの共演も重ねている。NHK-FM「名曲リサイタル」、NHK-BS「クラシック倶楽部」等にも出演。関西二期会準会員、関西歌曲研究会、西宮音楽協会各会員。渡邊弓子氏に師事。



## 山田愛子 ●アルト

Aiko Yamada, Alt

神戸女学院大学音楽学部卒業、同大学大学院音楽研究科修了。第12回松方ホール音楽賞受賞、第79回日本音楽コンクール声楽部門（歌曲）入選、西宮夙川ロータリークラブ創立20周年記念音楽コンクール優勝、第58回全日本学生音楽コンクール大阪大会大学一般の部第3位、第16回宝塚ベガ音楽コンクール声楽部門第6位、他受賞。オペラではR.シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」ドリアーア役、ヘンデル「トロメオ」アレクサンドロ役等で出演。各種演奏会に出演。モーツァルト「レクイエム」、ヴィヴァルディ「グロリア」、バルゴレージ「スターバト・マーテル」、ヘンデル「メサイヤ」、ベートーヴェン「第九」等、ソリスト。斉藤言子氏に師事。関西二期会会員、神戸市混声合唱団団員。



## 西垣俊朗 ●テノール

Toshiro Nishigaki, Tenor

大阪音楽大学大学院修了。在学中より宗教曲に手を染め、カンタータオラトリオの演奏には欠かせないコンサート歌手として活躍。特にバッハの「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」等のエヴァンゲリスト歌いとして高く評価されている。オペラでは、1976年東京オペラ・プロデュース公演のロシアニ「オーリー伯爵」でデビューし、その後、ロシアニ・テノールとして「セヴィリアの理髪師」「オテロ」「チェネレントラ」に出演。特に「セヴィリアの理髪師」のアルマヴィヴァ伯爵役には定評がある。またモーツァルトのオペラも得意としており、モーツァルトの五大オペラ（魔笛、ドンジョヴァンニ、ゴジファン・トゥッチェ、フィガロの結婚、後宮よりの逃走）全ての主役出演。関西二期会と大阪音大オペラハウスのこのシリーズで好演している。大阪音楽大学講師。



## 田中 勉 ●バリトン

Tsutomu Tanaka, Bariton

大阪音楽大学卒業、同大学院歌劇専攻修了。90年文化庁芸術家在外派遣研修員としてウィーン国立音楽大学に留学。オペラでは「椿姫」「ラ・ボエーム」「リゴレット」「イル・トロヴァトーレ」「ファルスタッフ」等に出演。なにわ芸術祭新人奨励賞、JSG国際歌曲コンクール聴衆特別賞、和泉市文化功労賞、音楽クリティック・クラブ本賞、大阪舞台芸術賞本賞受賞。大阪音楽大学教授。関西歌劇団理事。日本シューベルト協会会員。



**モーツァルト室内管弦楽団 Mozart-Kammerorchester**

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、40年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用している

ことは注目に値する。'91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠に年6回の定期演奏会を開催し、また'74年からは東京定期演奏会を隔年で開催し、既に16回を数えている。海外では'88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョア・ピリス('85、'87年)、シブリアン・カツァリス('93、'94年)、ペーター・ダム('83、'86、'88、'98、'00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル('86年)、ライナー・キューヒル('90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、'93年には堺シテリオオペラとの協力による(モーツァルト・オペラシリーズ)を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。2007~9年には全10回にわたる(没後200年記念ハイドン・シリーズ)を、2009年~11年には全18回にわたる(創立40周年シリーズ)を開催。また2010年からは(ベートーヴェン・シリーズ)を開始している。

**モーツァルト室内管弦楽団 / 出演メンバー**

**コンサートミストレス ● 林 泉**

第1ヴァイオリン	林 泉	幣 晴代	古味 寛靖	大宮 徳子
	本多 智子	納庄麻里子	大江 浩志	大西 由起
	稲庭 真理子	道 幸 明美	久保田裕美	森下 智彦
	北村 奈美	松井 紀子	オーボエ 福田 淳	末岡 希和子
	釋 伸司	西嶋 恵子	伊賀上 文子	トロンボーン 池田 知沙
	菊池 優理	高野 ちか子	クラリネットと高橋 博	バセットホルン 鈴木 智
	高木 美恵子	野田 祐子	門 小夜子	織田 貴浩
	中野 瑞己	D.フィッシャー	ファゴット 佐伯 利之	テューバ 三角 顕史
第2ヴァイオリン	寺西 一己	三木 恵理	倉永 晴美	ティンパニ 泉 純太郎
	清水 めぐみ	尾崎 達哉	ホルン 佐藤 明美	パーカッション 金原 俊
	川島 多美子	コントラバス 林 俊武	蒲生 絢子	中山 直音
	原田 潤一	北田 由美	岡田 喜美子	ハーブ 石井 理子



**モーツァルト記念合唱団 (合唱指揮 ● 益子 務)**

Mozart Choral Ensemble (Chor Dirigent / Tsutomu Masuko)

1991年にモーツァルト室内管弦楽団の要請を受け特別編成された合唱団。女声は若手プロを中心に、男声は合唱王国関西の著名合唱団の指揮者、パートリーダーに参加を要請、1991年7月に益子 務氏の指揮のもと発足、同年12月モーツァルト没後200年を記念してモーツァルト室内管弦楽団第48回定期演奏会で「レクイエム」を協演後、毎年協演を続ける。93年初の単独自主公演でジェニーヌ・ワグナー氏を客演指揮者に迎え「ロジェ・ワグナー・メモリアルコンサート」を開催。98年・2000年ベルギー・フランドル政府の招きで文化交流使節として2度に亘りベルギー演奏旅行を行い、ブリュッセルのサン・ミッシェル大聖堂での演奏、FM3での放送などで大成功を取めた。2000年設立10周年記念にCD「ロッシェニ小荘厳ミサ」をリリース。2010年には神戸で行われた日本音楽療法学会での大会長公演、2011年のモーツァルト室内管弦楽団との合唱団創立20周年記念コンサートに引き続き、2012年5月26日には合唱団の自主公演として20年の歩みを記念したコンサートをいずみホールで行う予定。

**モーツァルト記念合唱団 / 出演メンバー**

ソプラノ	大家 慈子	銭田 美幸	谷本 雅美	友金 郁子	中田 佳代
	平芳真寿美	御池あゆみ	藪野 良子	山本 真紀	渡邊 智子
アルト	以倉安希子	井村 園子	大矢喜久子	金田智津子	佐野 康子
	中根 佳江	中野 典子	森田 裕子		
テノール	岡本 弘信	大當 康博	桑田 明和	近藤 達夫	陶山 悟嗣
	中村 達雄	古川 完	吉田 均		
バス	内野 博之	小島 博	二階堂哲雄	野村 透	林 龍太郎
練習ピアノ	矢野ゆかり				ピーター・フィンケ 米岡 実



会 長 岡 本 道 雄 (京 都 大 学 名 誉 教 授)  
 理 事 谷 口 安 平 (京 都 大 学 名 誉 教 授) 森 井 清 二 (関 西 電 力 株 式 会 社 顧 問)  
 吉 野 泰 生 (住 友 生 命 保 険 相 互 会 社 名 誉 顧 問)  
 (50音順)  
 顧 問 平 松 邦 夫 (大 阪 市 長) 伊 藤 郁 太 郎 (大 阪 市 立 東 洋 陶 磁 美 術 館 館 長)  
 梅 原 猛 (国 際 日 本 文 化 研 究 セ ン タ ー 顧 問)

法人会員 (50音順)

荒川化学工業	サントリーホールディングス	大同ケミカルエンジニアリング	丸山興産
井上冷熱	住友金属工業	高松建設	三井住友カード
関西電力	住友精密工業	日本通運京都旅行支店	
きんでん	住友生命保険	林 六	
小林製薬	住友倉庫	福山製紙	
阪野商店	ダイキン工業	丸 紅	

個人会員 (入会順、敬称略)

松井 繁一	村本 孝夫	松枝 多加子	松井 とも子	野原 清秀	池田 米
深田 晴世	松本 幸道	高杉 方宏	得田 栄蔵	堀 正二	八木 孝昌
河野 幹雄	笹川 忠士	川島 弘章	菱谷 勝次郎	松井 基純	高田 早智子
河野 奈津子	緒林 桂子	川島 啓助	足立 宣治	松井 香代子	大西 富久子
福岡 隆子	碓井 昭彦	中井 武司	東 武次郎	山本 道子	山田 晴三
梅原 一哲	碓井 みち子	中井 佐和子	竹林 大生	大 磯 隆一	西垣 真理子
石本 三千也	長井 重龜	豊田 成子	豊田 紘生	細井 提吉	榎原 良行
田村 真也	岸田 多門	切畑 敦詞	奥野 哲久	大谷 弘枝	渡辺 義明
岸田 克己	能田 豊	中東 富佐子	飯田 祐子	大原 清司	小川 雄介
梅村 博也	宮井 茂治	三石 武男	宮井 芳子	大原 典子	能田 久美子
屋良 記佐治	祐野 尚子	内藤 芳美	塩脇 昭司	伊藤 久栄	下園 靖子
國友 正和	金定 秀光	神林 恒道	塩脇 祥子	山村 哲夫	河井 洋子
稲垣 千代子	金定 嘉也子	杉浦 和子	一木 晃	速水 洋紀	宮北 浩司
浮田 俊太郎	中嶋 允子	野村 透	岩崎 弘一	安井 敏雄	芳中 民代
桑山 弘	福岡 昭吉	今井 安男	河濑 清子	天尾 登	奥村 一
三谷 郁子	菅 正徳	玉手 隆子	佐竹 時子	橋本 博	市崎 英二
三浦 信一郎	日高 穂	野崎 志朗	千 宗守	梁 瀬 健	櫛木 好明
水鳥 敬夫	藤原 啓助	橋本 靖昭	荒木 陽子	松山 壽一	深山 浩
渡辺 優子	馬場 明和	有賀 照雄	宮崎 悦朗	松谷 郁子	
平川 美津子	阪野 和子	佐野 哲郎	栗原 順子	山下 鉄男	
安藤 邦洋	宮川 泰濟	小柳 陽一	完倉 正信	古川 法史	
橋本 太三雄	和田 暁夫	田中 四郎	野口 祐三	萬野 尊昭	
阿部 由美子	桑名 孝子	村西 良彦	野口 外志子	植田 史子	
中川 泰幸	石光 正男	鳥村 猛	森本 武	松本 桂子	
石上 豊子	松枝 正明	河原 恭子	小山 浩	佐野 哲昭	

会 費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。 (有効期間は入会時より1年間です。)  
 ・法人会員につきましては年会費1口10万円です。 (随時ご入会いただけます。)  
 会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)  
 ・ご同伴者は10%割引となります。  
 ・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。  
 ・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。  
 ・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。